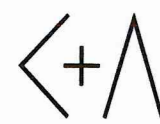
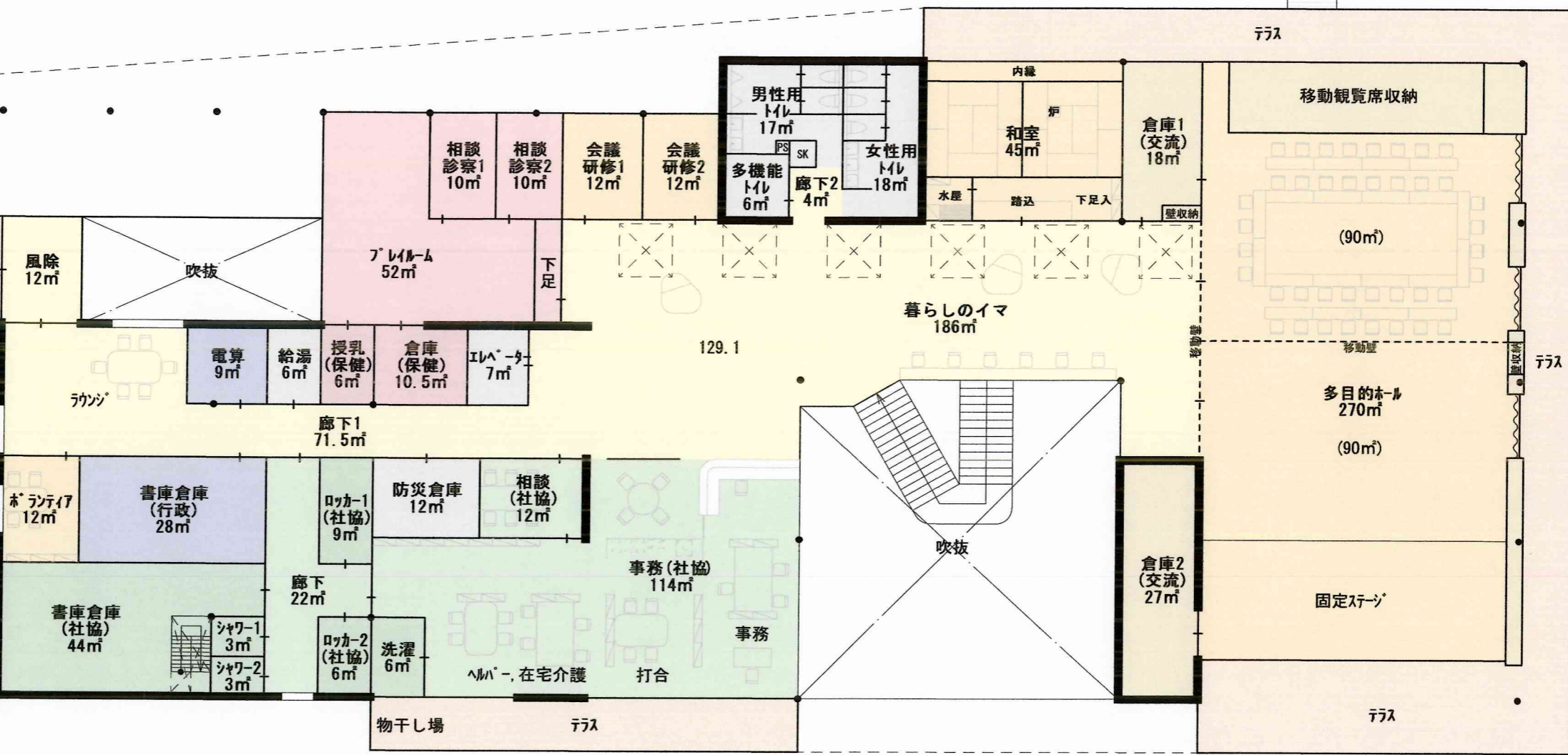


和東町庁舎

129.1

屋外  
連絡通路

129.1



株式会社 アソシエイト 一級建築士事務所  
 愛知県名古屋市中区大須3-5-13  
 TEL 052-251-1751 FAX 052-251-1752  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録(い-30)第 9152 号  
 一級建築士 第 218738 号 伊藤 恭行

COLLABORATOR

PROJECT

和東町総合保健福祉施設

PHASE

基本設計

TITLE

2階平面図

SCALE

1:200 (A3)

DATE

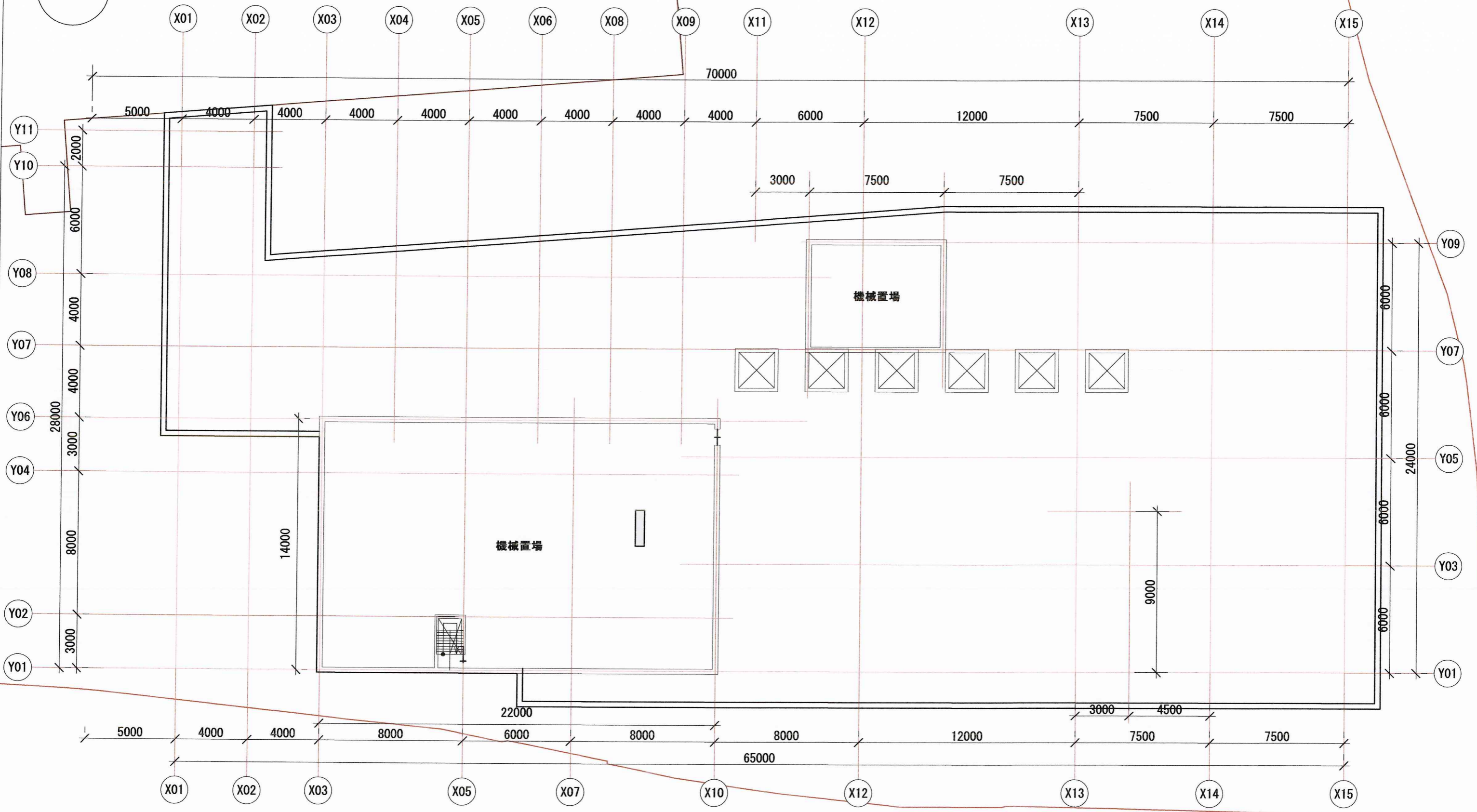
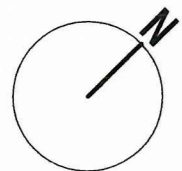
令和4年 11月

PAGE

8



和東町庁舎



株式会社 アソシエイツ 一級建築士事務所  
 愛知県名古屋市中区大須3-5-13  
 TEL 052-251-1751 FAX 052-251-1752  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録(イ-30)第 9152 号  
 一級建築士 第 218738 号 伊藤 恭行

COLLABORATOR

PROJECT

和東町総合保健福祉施設

PHASE

基本設計

TITLE

屋上階平面図

SCALE

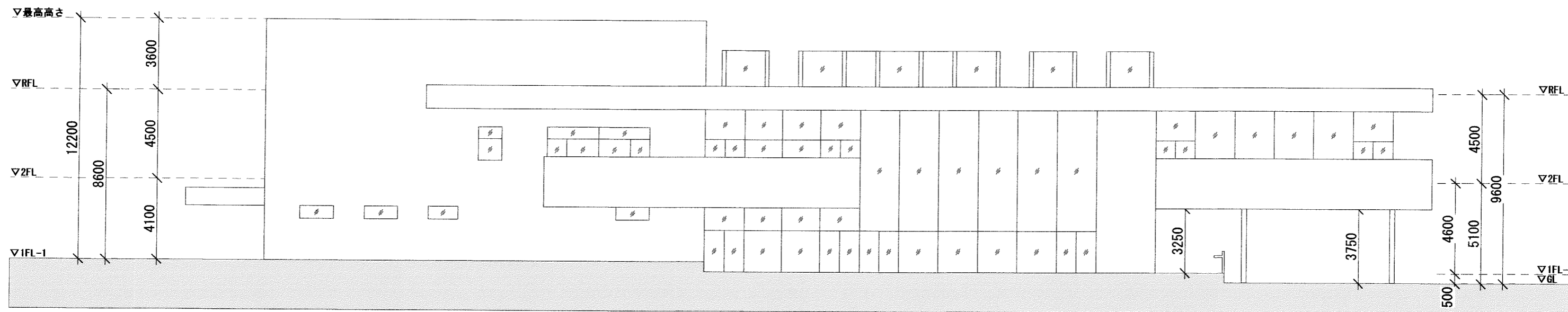
1:200 (A3)

DATE

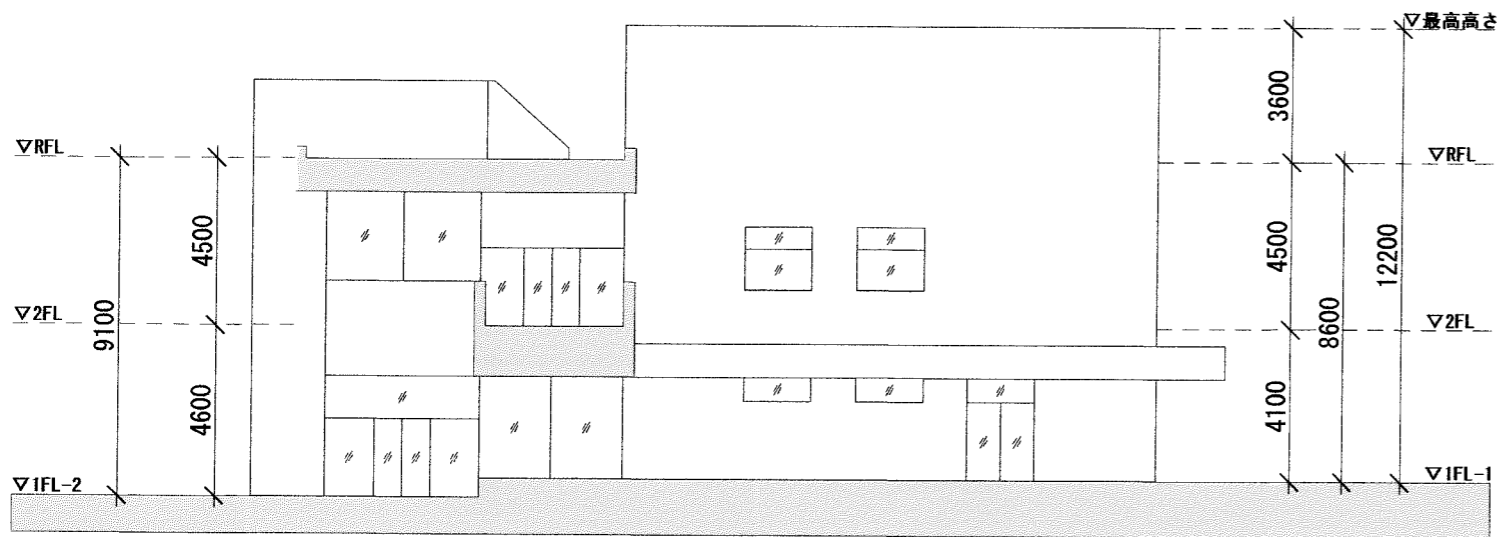
令和4年 11月

PAGE

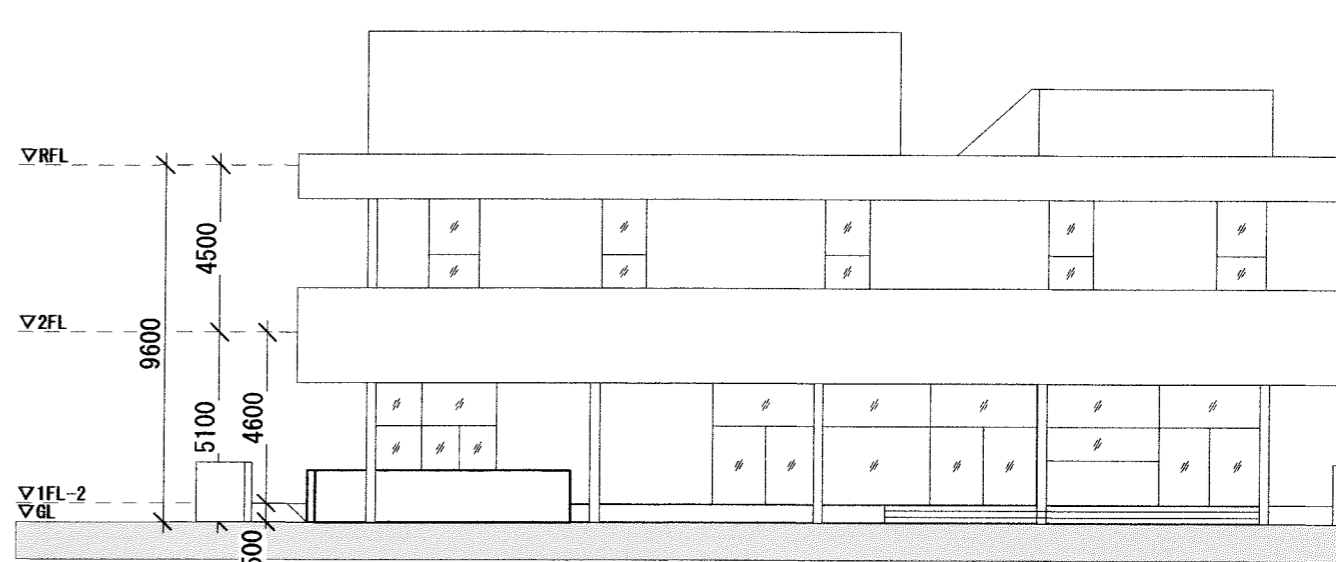
9



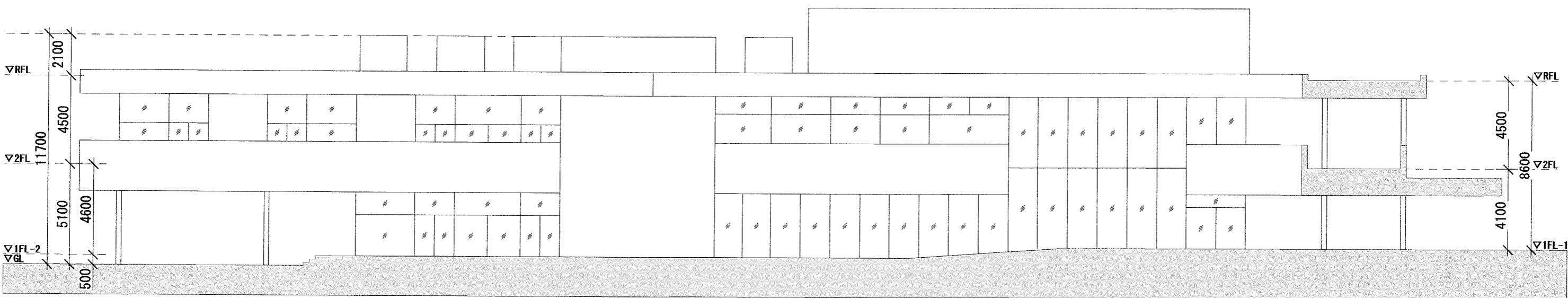
南東立面図



南西立面図



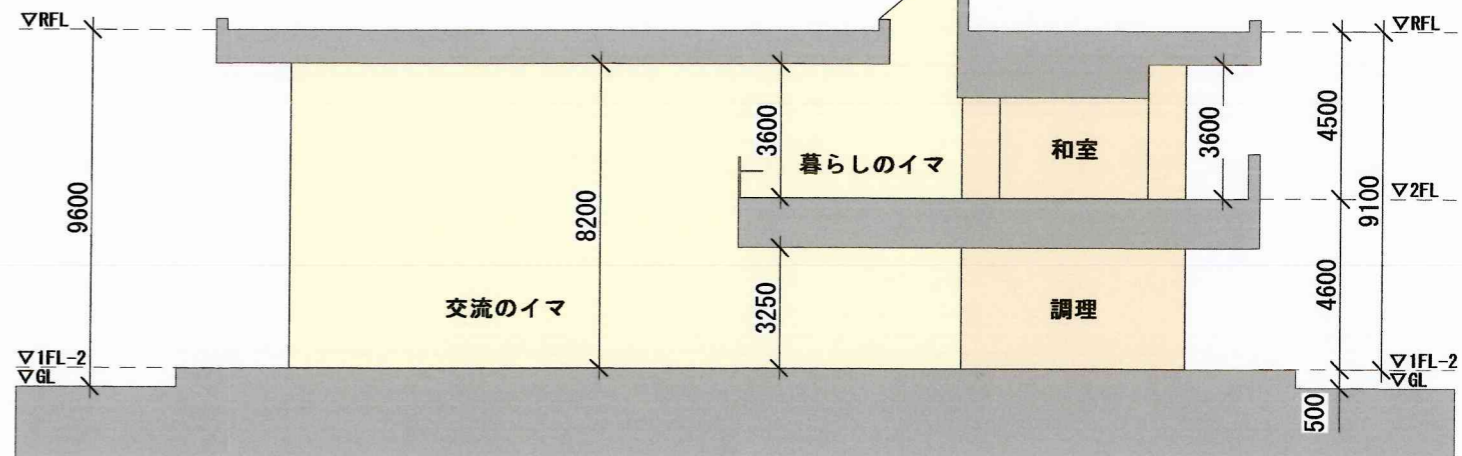
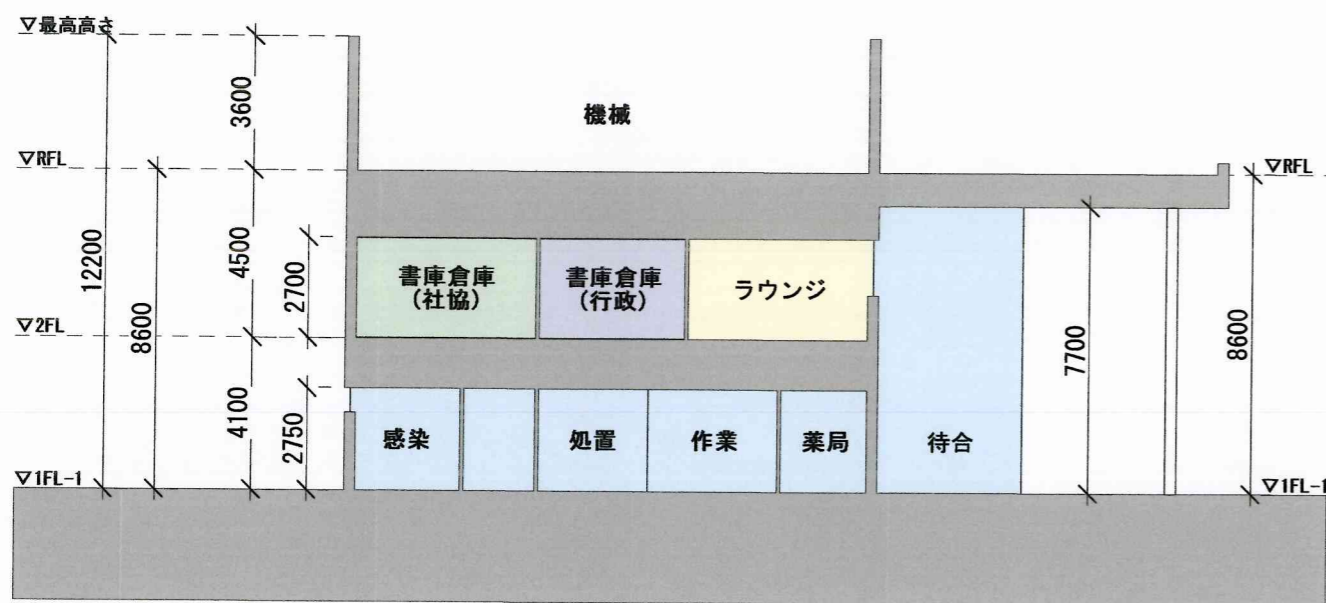
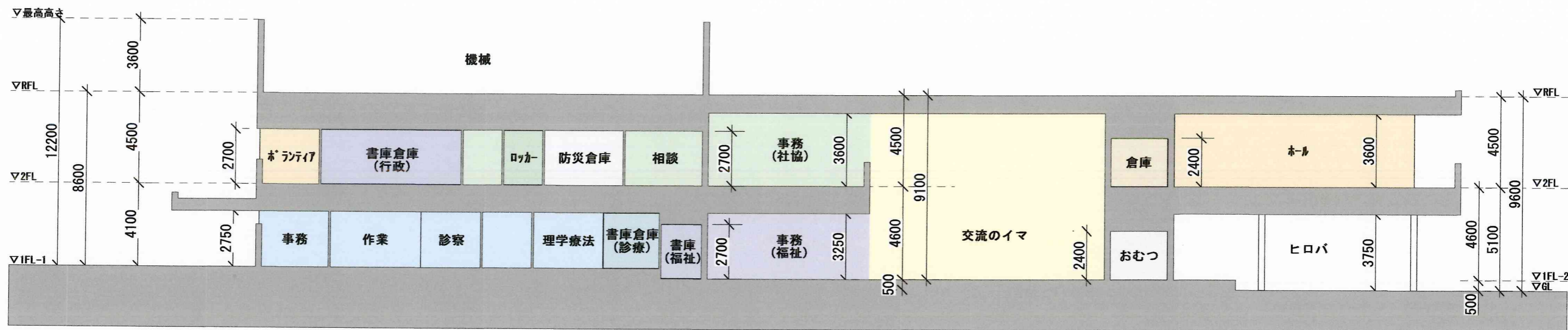
北東立面図



北西立面図









## 多目的ホール検討

### プロポーザルにおける多目的ホールの考え方

基本計画に則り、多様な活動が実現できるよう可変性の高い多目的ホールを計画した。

具体的には、日常時・イベント時・災害時において、ホールを下記のように利用できるように計画することが基本計画において定められた。

○日常時

最大6分割を可能とし、会議・研修室エリアと軽スポーツエリアとして計画。

会議・研修室エリアは中～大会議室として利用でき、軽スポーツエリアは天候に左右されず多世代が自由に遊びや軽スポーツを楽しめる。

○イベント時

座席数は240席程度を確保する。

○災害時

福祉避難所も兼ねた住民の避難所として利用する。

### 基本設計で出た意見

ホールの仕様について、町民団体、行政職員、議会、建設委員会で、下記のような意見が出た。

- ・固定ステージ（下部椅子収納）をつくり、地元木材を活用しては
- ・釜塚の茶畑がステージの背景になるよう計画し、景観資産を活用しては
- ・20人～40人程度の会議が多いという利用実態から、日常時は2分割が良いのでは
- ・イベント時、移動観覧席があると後席からもステージが見やすい
- ・後から移動観覧席は設置できないので設置する方が良い
- ・人口減少を考えると移動観覧席まではいらぬのでは
- ・使用頻度が少ない設備をつくるのは無駄
- ・今後どのように利用していくのが大事
- ・移動観覧席がある事で成人式やコンサートなどこれまで行ってこなかったことができるようになる
- ・犬内峠トンネルの開通に伴う交流人口の増加を見越し、質の高いホールをつくっておくべきでは

### 3案の比較検討

プロポーザル案を踏襲した案、住民ヒアリング等で出た意見を反映したホール案（2案）を作成した。

和東町総合保健福祉施設基本設計に関する提言書、町議会や住民の意見等を総合的に勘案した結果、C案を選択。

	A 移動ステージ案(プロポーザル案)		B 固定ステージ案		C 固定ステージ、移動観覧席案	
	日常時(345日程度/年)	イベント時(20日程度/年)	日常時(345日程度/年)	イベント時(20日程度/年)	日常時(345日程度/年)	イベント時(20日程度/年)
イメージ図						
日常時の使いやすさ	平土間部分面積：270㎡ 移動壁により2～5室の部屋に分割可能 活動規模に合わせて部屋の大きさをを選択できる		平土間部分面積：216㎡ 移動壁により2室の部屋として分割可能 利用実態(20～40人規模の会議が多い)に合わせた部屋の大きさ		平土間部分面積：180㎡ 移動壁により2室の部屋として分割可能 利用実態(20～40人規模の会議が多い)に合わせた部屋の大きさ	
催事時の使いやすさ	ステージと椅子の設営に人手が必要 倉庫内の物がホールに出る事で、倉庫を控室として利用できる ステージの背景に景観資産を活用		椅子の設営に人手が必要 ステージ下部を収納とする事で、準備室を計画できる ステージの背景に景観資産を活用		椅子の設営に人手が必要 ステージ下部を収納とする事で、準備室を計画できる ステージの背景に景観資産を活用 移動観覧席により段床の客席が計画できる	
コスト	約490～770万円 ステージ 約280万円、スタッキングチェア 約490万円 ※ステージをレンタルする場合：15～20万円/回		約770万円 ステージ 約280万円、スタッキングチェア 約490万円		約4,440万円 ステージ 約280万円、スタッキングチェア 約290万円、移動観覧席 約3,870万円	





健康づくり拠点 X 防災・減災のランドスケープ

A. 健康づくりの拠点として会話と交流のあるサードプレイスをつくる  
サードプレイス：家庭（第1の場）・職場（第2の場）でもない第3の居心地の良い場所



まちの縁側となりコミュニケーションの場となる（みんなの公園）



地域の子どもたちが集まり居場所となる（豊川市葵風館）

サードプレイスをつくるさまざまな仕掛け



テーブルやベンチ



遊び場となる涼みの場としての薄層水盤



緑陰と居場所



動きのある遊びが可能となるミストポール

B. 減災のランドスケープ



植栽帯を使ったレインガーデン

グリーンインフラ技術



透水性のあるポーラスコンクリート（左）や保湿性のある土ブロック（右）



貯水のできるブロック舗装（貯留型インターロッキングブロック）

C. 地域に愛される施設づくり



さまざまなニーズに応えられるデザイン

愛着のわく場づくりのための取り組み



地域で愛された郷土の植物をのタネから市民とともに育てる



市民参加型のサイン





多世代・多用途利用に利用しやすい、サードプレイスとしての小さな居場所が集まるプロムナード(施設間通路) ・庁舎との連携を強める南北を縦貫するプロムナード(施設間通路)を中心に、ジグザグ形状により多様な居場所を創出します。  
 サードプレイス：家庭(第1の場)・職場(第2の場)でもない第3の居心地の良い場所  
 ・場所ごとに異なる舗装と家具・植栽の組み合わせにより、限られた空間の中で異なる活動が併存できる場を目指します。

**プロムナード(施設間通路) エントランス**

敷地を南北に結ぶプロムナード(施設間通路)を計画し、庁舎と計画施設を繋ぐとともに、ベンチや広場などの小さな居場所を内包した施設の核となる「通り」を計画します。

**高生垣**

内外を一體的な舗装でつなぎ、駐車場から室内へとスムーズに導く。また車回しと歩道との間には車止めを設置し、歩行者の安全性に配慮したデザインとします。

**ベンチ**

エントランスへの通路沿いにベンチを設けることで、待ち合わせや荷物整理などの利用ができます。スロープと接することで子どもから高齢者まで利用しやすくしています。

**芝生広場**

西側には芝生のある小さな広場を設置し、子どもたちの遊び場としての利用を促します。またミストボールなどを設置し、多様な遊びができるようにします。

**縁側**

南側の駐車場やバス停から見える位置にテラスを張り出しています。「交流のイマ」での活動が外部まで展開することができ、本施設での活動が外にまで溢れ出します。

**見守りテラス**

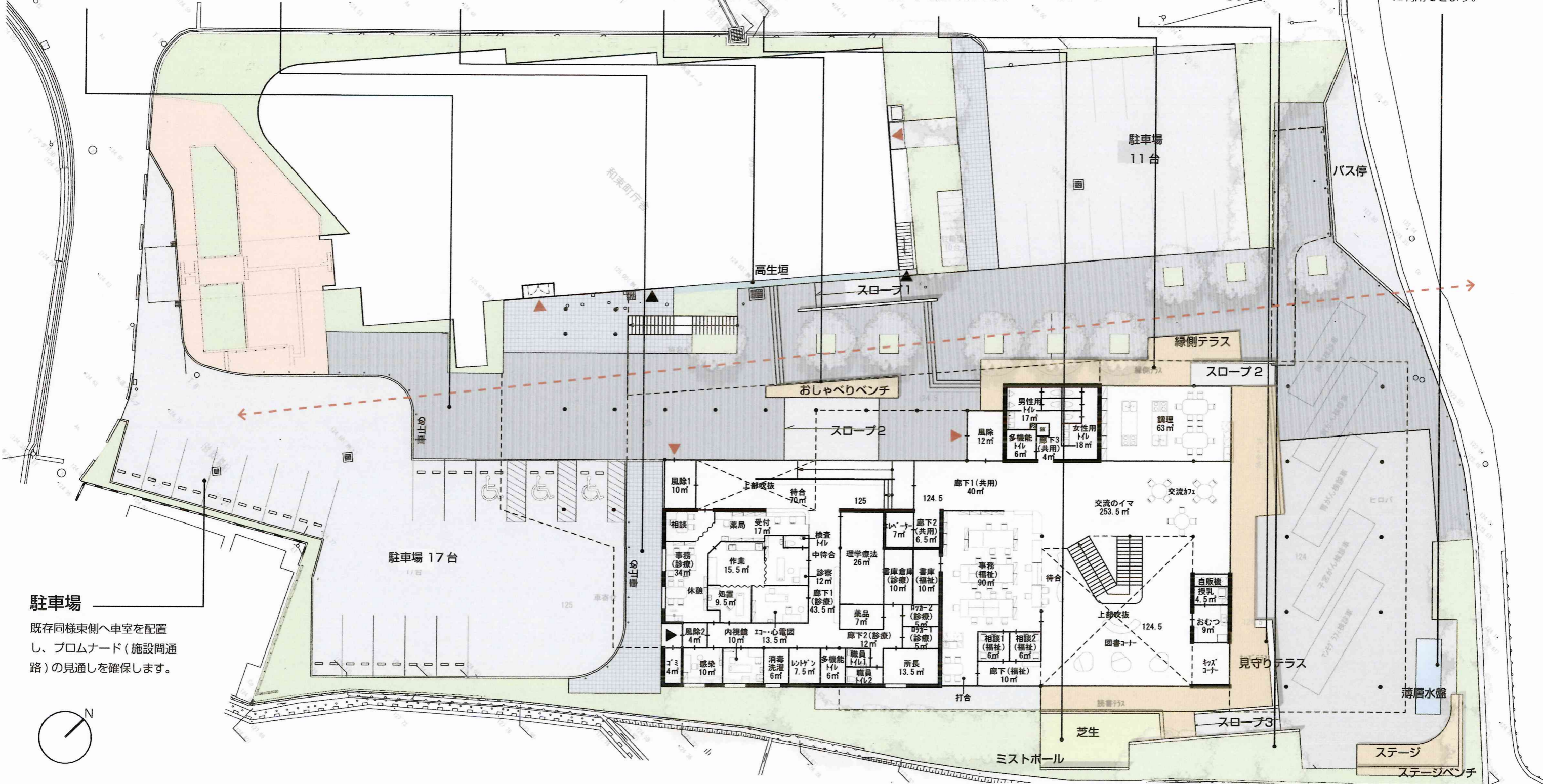
ピロティ広場での活動を見守る場としてテラスを設置します。机や椅子を設置することで、飲食や会話、学習の場としても利用することができます。

**ステージ**

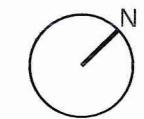
ピロティ広場端部にステージを設置し、さまざまなイベントができるようにします。また、ベンチを設置することで、日常的な交流の場として機能します。

**薄層水盤**

厚さ数ミリの薄層水盤を設置し、水場として楽しめる遊び場とします。冬場や検診車などが利用する際は水をとめることでピロティ広場と一体的に利用できます。



**駐車場**  
 既存同様東側へ車室を配置し、プロムナード(施設間通路)の見通しを確保します。



株式会社 アソシエイト 一級建築士事務所  
 愛知県名古屋市中区大須3-5-13  
 TEL 052-251-1751 FAX 052-251-1752  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録(シ-30)第 9152 号  
 一級建築士 第 218738 号 伊藤 恭行

COLLABORATOR  
 (株) エイブシー・ランドスケープ・アーキテクト  
 岐阜県岐阜市松風町1-30  
 TEL 052-433-5470

PROJECT  
**和東町総合保健福祉施設**

PHASE  
**基本設計**

TITLE  
**ランドスケープ検討**

SCALE  
**1:300 (A3)**

DATE  
**令和4年 11月**

PAGE  
**14**



非常用発電設備

発電電力の供給先と目的	管理負荷、一時避難場所(大ホール)、トイレ、 体調不良者の一時滞在及び処置、ロビー、事務所の一部機能 の継続使用を目的とする。	
発電機 対象負荷	照明、管理負荷、コンセント	
発電機 対象負荷(詳細)	【照明設備】 2階社協事務室(管理主装置盤前)、2階ホール、1階2階トイレ 2階和室、2階防災倉庫、2階電算、2階くらしのイマ、 1階診察室、1階処置室、所長室、1階薬品、1階くらしのイマ、 1階福祉課事務室、1階診療事務室 (全て1/3点灯)  【管理負荷】 自動火災報知受信機、非常放送アンプ、ITV制御盤、時計制御盤、 入出退制御盤、機械警備制御盤、電話交換機、ELVインターホン  【コンセント】 2階社協事務室(管理主装置付近)の一部、2階ホール、1、2階トイレ水栓 1階福祉事務室の一部、2階和室の一部、2階くらしのイマの一部、 1階診療事務室の一部、1階診察室の一部、1階処置室の一部、 1階くらしのイマの一部	
発電機容量	45kVA	
出力電圧	単相3線200V-100V	
想定運転時間	69.7時間(2.9日)	
発電設備主要機器	ディーゼル式パッケージ型発電機 (75dB騒音)、 燃料小出し槽、 油送ポンプ	
燃料消費量(ℓ/h)	14.2	
燃料搭載量	990ℓ(単独小出し槽)	
危険物の規制対象(軽油想定)	少量危険物	
コスト(円)	発電機本体	840万円
	燃料タンク	480万円
	油送ポンプ・配管	120万円
	搬入据付、調整	120万円
	配電設備(スコット変圧器盤)	—
計	1,560万円	

<第四類危険物指定数量>

	A重油	軽油
危険物範囲	2000ℓ以上	1000ℓ以上
少量危険物範囲	400ℓ以上2000ℓ未満	200ℓ以上1000ℓ未満

- 前提条件
1. 燃料は周囲原動機との融通性が高い軽油を使用する。
  2. 燃料備蓄量は危険物扱いにならない値とする。
  3. ディーゼル機関とする。
  4. 基礎工事を除いた金額とする。

※本表の運転時間はフル負荷の状態での運転した際の数値である。実質の運転時間は昼夜負荷率の変動もあり、1.2倍程度まで延びると思われる。

太陽光設備

<京都府条例による目標発電量>

建築物の種別		数値	単位
特定建築物(延床面積2,000㎡以上)	延床面積	2,403.59	㎡
	義務量	72,107	MJ
準特定建築物 (延床面積300㎡以上2,000㎡未満)	義務量	30,000	MJ

<京都府条例の算定式による太陽光発電設備スペック>

名称	数値	単位
1枚あたりの太陽光パネルの出力※1	0.295	kW/枚
設置計画パネル枚数※2	20.42	枚
年間時間	8,760	時間
発電効率	0.14	
一次エネルギー換算係数	9.76	MJ/kWh
エネルギー量		MJ/年
システム容量		kW/組

※1 参考パネル:「panasonic VBM295EA02」

※2 実装枚数は21枚以上とする

≧ 京都府特定建築物義務量  
72,107 MJ

項目	年間
月毎 発電電力量 (kWh)	7,388
月毎 発電電力量 (MJ)	72,108
月別 関西電力単価 (円/kWh)	—
月別 電力量料金 (円)	97,000

名称	数値	単位
1枚あたりの太陽光パネル出力※1	0.295	kW/枚
設置計画パネル枚数※2	25.09	枚
エネルギー量	72,108	MJ/年
システム容量	7.4	kW

※1 参考パネル:「panasonic VBM295EA02」

※2 実装枚数は26枚以上とする

≧ 京都府特定建築物義務量  
72,107 MJ

パネル面積	37	㎡
イニシャルコスト	3,701,000	円

(架台、屋外配線含む)





災害用トイレ

項目	1階トイレの利用
システム図	
構成	1階トイレを使用 災害時用排水槽に貯留
概要	災害時は1階トイレ排水をバルブ切り替えにより、排水槽に貯留しておく、下水復旧後公共下水にポンプで放流
し尿の貯留	災害時用 排水槽に貯留
水洗方式	通常的水洗
処理人数	汚水槽貯留で400人を想定
必要洗浄水量	大 4.8ℓ/回 小 3.6ℓ/回
耐震性	建築耐震性に依存
施工性	通常の施設として施工
必要土被り	不要
実績	災害時に使用出来るようにする事例が増えている。
イニシャルコストの目安	5万円（バルブ設置費）
総合評価	通常使っているもので、特に準備は必要ない

受水槽

受水槽算定（非常用水源）

室名	-	用途毎の各室人員及び面積			備考
		診療所 [L/日]	飲料水 [人]	便器洗浄水 [人]	
診療所	-	1300			※断水期間は3日を想定する。 ※飲料水・便所洗浄水以外の雑用水は見込まないものとする。
避難所	-		400	400	
各集計		1300	400	400	
全体給水量算定					
基準給水量		1300L/日	4L/人・日	5L/人・日	
断水日数		3.0	3.0	3.0	
用途毎給水量[L/日]		3900	4800	6000	
計画給水量[m <sup>3</sup> /日]		14.7			

受水槽容量（非常用水源）	3日間使用水量	14.7 m <sup>3</sup>	×	134%	≒	20.0 m <sup>3</sup>	←採用水量
	受水槽外形寸法	W 4.0 m	×	D 3.5 m	×	H 2.0 m	
	※常用水源分5.0m <sup>3</sup> を上乗せ、3日分容量14.7m <sup>3</sup> ×134%=20.0m <sup>3</sup>						
	※補給水中の塩素が順次流入するため常時の残留塩素濃度に問題はないが、断水時は塩素タブレット投入で濃度管理が必要。						

